

# 思想史入門の魅力

2019年6月4日  
名古屋大学経済学部  
カンファレンスホール  
安藤隆穂（中部大学教  
授：名古屋大学名誉教  
授）

# 社会思想史（歴史）の自己紹介

- ▶ 思想史的態度の成立
  - ▶ 19世紀末以降：欧米
  - ▶ 知的歴史の批判的反省：思想の社会的態度を問う
  - ▶ (英)フェビアニズム、(仏)レジスタンス文学・哲学、(独)社会政策、(日)社会思想史(社会科学)
- ▶ 様々な思想史(理論史・今日的)
  - ▶ 哲学史
  - ▶ 法思想史
  - ▶ 経済思想史
  - ▶ 文学史
  - ▶ 社会学史
  - ▶ 教育思想史
  - ▶ 科学思想史
- ▶ 社会思想史：歴史・具体的・媒介的思想研究
  - \* 社会思想の歴史
  - \* 思想の社会的態度を問う
- ▶ 思想と(社会)諸科学
  - ▶ 社会運動史
  - ▶ 民衆思想史
  - ▶ 社会史
  - ▶ 宗教史
  - ▶ 心性史

# 社会思想史への接近

## 言葉と文脈

---

- ▶ 現象と存在：具体と抽象
  - ▶ 固有名詞と普通名詞
  - ▶ 「見えること」と「在ること」
  - ▶ モノがあるから見えるのか？
  - ▶ 見えるからモノはあるのか？
  - ▶ イヌは存在するか？
  - ▶ 存在と言葉：文脈
  - ▶ 「あるクレタ人が『クレタ人はすべてうそつきだ』と  
いった」(エピメニデス  
B.C.600?)
  - ▶ 「私は死んでいます」
  - ▶ クロノスとカイロス
  - ▶ 物語と時間
- 



# 社会思想史の方法

---

- ▶ 社会思想史は歴史・具体的・媒介的に思想を問う
  - ▶ 歴史と人間
    - 人間と自然(労働)
    - 人間と社会(諸関係)
    - 意識と言葉の再生産
  - ▶ 思想の社会的態度を問う
  - ▶ 思想の存在を問う
  - ▶ 歴史と社会に生きる人間 = 個人 of 思想
  - ▶ 思想の歴史的存在を生き直す → 自己と生きる場の再認識
- 



# 社会思想史概要

水田洋『新稿社会思想小史』（2006年）

---

I 社会思想とは何か

II 古代

III 中世

IV ルネサンスと宗教改革

V 市民社会の成立

VI 資本主義と階級対立

VII 後進国の近代化

VIII 資本主義と社会主義

IX 資本主義社会の成熟

X 帝国主義と世紀末

XI 戦間期の思想

XII 戦後思想の諸潮流

▶ 水田洋：名古屋大学名誉教授

---



# 公共圏の思想史へ：公共とは何か

## H.アレント『全体主義の起源』（1951）

---

### 考えないと何が起こる

ナチズムの経験

ルサンチマン

帝国主義と権力

大衆社会

『イエルサレムのアイヒマン』（1963）

### 分かりやすさを疑う

ルーマン『信頼』（1968）

### 大衆社会：他者の喪失

日常への埋没

バラバラの個人

他者への無関心

全体性への依存

排外主義と人間性喪失

### 考えるとは？ 他者の訪れ

「集中し、対峙し、抵抗す

る」(アレント) **公共の出現**



# 公共とは？—古代の市民

(H. アーレント 1905 - 76)

## ▶ 人間とは:

**活動 (action)** : 言語による人間関係行為  
物語を紡ぐ

**仕事 (work)** : 目的合理的行為・生産物

**労働 (labor)** : 生存と繁殖・生産と消費の

循環

## ▶ 古代(ギリシャ)市民(政治的徳)

**活動→仕事** : 市民・ポリス (哲学) 政治的

徳

**労働** : 奴隷(女性) (イソップ童話)

生活の言葉・奴隷 ⇔ 知性の言葉・市民

# 近代市民（公共）創造（J.ハーバマス1929-）

## *Strukturwandel der Öffentlichkeit*1962

---

### ▶ 市民的公共性（18世紀）：中産階級の成立

財産（家族）：教養（参入条件）

公共圏：集会（カフェ）とメディア（出版）

言論の自由：理性の対話

正義と公正を判断

意見（世論）→ 公論（Public Opinion）

批判 ↓ ↓ 規制

政府

---



# 公共圏の(解体)変容

## 反知性主義・教養没落 (ハーバマス)

---

### ▶ 公共性の解体(全体主義・ファシズム)

国籍: 国語(参入条件)

検閲・メディア統制・専制

言論(世論)の調査と統合: 対立と感情

美醜判断: 好きか嫌いか

感情→**集団**・ナショナリズム・世論(Sentiments)

---

# 公共圏胎動：「人権（個人）」と「主権（市民）」 ウエストファリア体制（1648年—）

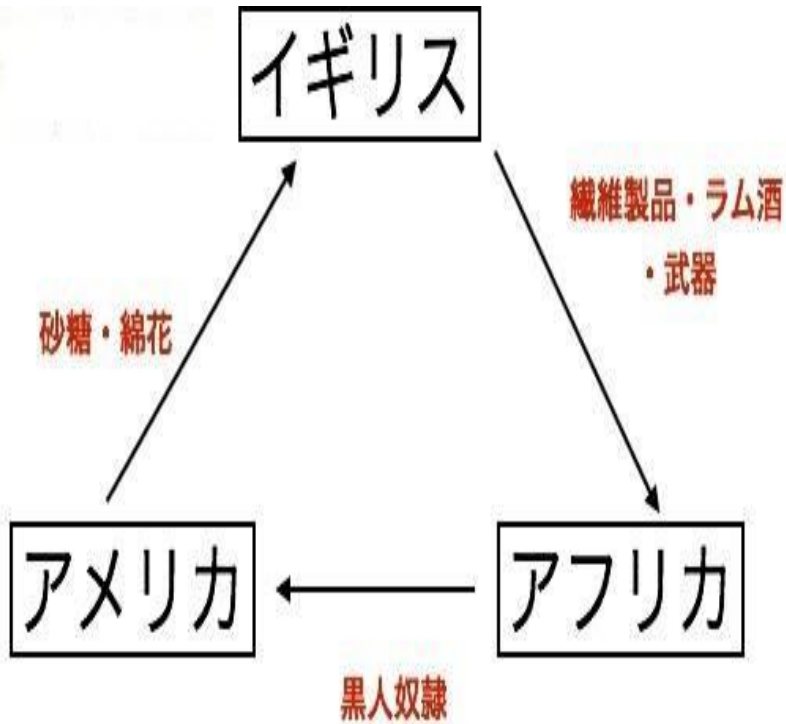
---

- ▶ 30年戦争（1618-1648）
  - ▶ ウェストファリア条約
    - 主権**連合
    - 世界経済の分割
    - 宗教からの政治の独立
  - ▶ 自由権（愚行権）：個人
    - ⇒（カフェ・メディア）
    - 公共圏**—**公論**
    - 市民**を育てる場
  - ▶ 中世末期の戦争
  - ▶ 銅版画集
  - ▶ ジャック=カロ『戦争の惨禍と不幸』1633年
-

# 世界経済：公共圏：主権（国家）

---

三角貿易（土地⇒商品）



- ▶ 1648年
- ▶ ウェストファリア条約
- ▶ 主権による国際秩序

- ▶ ヨーロッパの成立(ウエストファリア体制1648-) 世界経済  
主権連合
- ▶ ギリシャ哲学 言葉
- ▶ キリスト教 良心 **主権と市民の時代**
- ▶ ローマ法 契約
- ▶ 国際連盟 League of Nations1920.1-1946.4
- ▶ 国際連合 United Nations1945-
- ▶ 同時多発テロ2001.9.11 **宗教・ナショナリズム噴出**
- ▶ イラク戦争(2003.3.20)以後 **主権解体:グローバル化**

# 近代史年表

---

## 《表》

### 世界経済システム/主権国家連合

イギリス市民革命1642ー  
ウエストファリア条約1648  
文芸共和国→公共圏  
イギリス産業革命  
フランス革命1789ー  
ナポレオン帝政1804ー  
フランス産業革命  
1830年、1848年諸革命

### 市場、近代国家、科学技術、公共圏

## 《裏》

### 搾取・貧困/収奪・戦争

三角貿易／東西インド会社(イギリス1600ー)  
スペイン継承戦争(1701-13)  
オーストリア継承戦争(1740-48)  
リスボン大地震(1755.11.1)  
7年戦争(1756-63)  
アメリカ独立宣言1776  
ナポレオン戦争(1804-15)  
恐慌(1825,36,47,68)

### 戦争、革命、災害、排除と貧困



# 個人と市民の樹立：フランス革命

## 基本的人権・立憲主義・民主主義

---

### ▶ 1789年「人間と市民の権利の宣言」

基本的人権（自由・平等・財産） 近代的個人の尊厳

立憲主義と統治 法の支配と権力の分割：知性

権利の体制と権限（知性）の配分

### ▶ 民主主義 （+憲法制定権力）

### ▶ 立憲主義と自治 知性への信頼

教育の自治（教養と専門人の論理）

---



# 近代市民と人間（個人）

（自由・平等な個人と知性による代表制規制）

## ▶ 近代の市民

活動の中心：日常生活 社会的分業

財産と時間 ⇒ 生活必要時間（労働）／剰余時間（余暇）

## ▶ 生活・市民・政治の分割（個人の分割） 立憲主義体制

日常生活： 社会的分業（「私」）

余暇： 教養→知性と代議制度（代表）知性による規制

媒介： 市民社会と公共圏

民主主義の前提： 貧困の絶滅

## ▶ 二つの分業：社会的分業／公私分業 労働→仕事→活動

生活の言葉・人間（個人） ⇔ 知性の言葉・市民

# 「人間と市民の権利の宣言」の経験 フランス革命：民主主義の挫折

---

- ▶ A. ジャコバン恐怖政治(1793 - 94)  
愛国心と道徳
- ▶ B. テルミドール派自由主義(1794ー)  
知的寡頭制
- ▶ C. ナポレオン独裁(1804ー15)  
国民投票独裁

**代表制が機能しなかった  
公共圏と公論の挫折**





# テルミドール派自由主義の経験

## 自由・代議制・独裁

---

代議制共和国の設計

商品経済の自由

民衆⇒受動市民

可処分層⇒能動市民

能動市民の代議制

公教育

労働技術教育

高度専門人教育

政治的不安定

クーデタと軍人化

公共圏の再生

世論の導入

国民投票

皇帝ナポレオン誕生

---



# 何が起きたのか？ 代表制の機能不全

---

## 市民的公共性の成立

- ▶ 公共性(公共圏): 公論
- ▶ 17-18世紀
- ▶ 公開討論・公論による合意の政治秩序
- ▶ 真偽判断
- ▶ 参入条件「財産と教養」
- ▶ 代議制度

## 公共性の変質(解体)

- ▶ Popular Sentimentsへ
  - ▶ 19世紀以降
  - ▶ 感情による集合・世論による政治秩序
  - ▶ 美醜(好悪)基準
  - ▶ 参入条件「言語と国籍」
  - ▶ 代議制度の腐敗
- 



# 公共圏の葛藤 (B. コンスタン1767-1830)

## 三つの阻害：個人の「私」化

---

1. **経済的自由** 個人の「私」化：格差と他者の喪失  
経済的時間：カイロスの解体：夢の消費

2. 集団と階層化  
宗教(良心)  
集団(絆)  
国家(国民)

3. 思想(表現)の自由の窒息

**検閲とメディア統制**

**世論調査、説得、多数意見、単一真理**  
**感情・美醜 (好き嫌い) : 反知性主義**

**抵抗： 思想と表現の自由**

**世論を創造、対話、少数意見**  
**真理の多様性・歴史的検証**  
**理性・正義と公正**

---

# 公共圏：篡奪と抵抗

---

- ▶ 無意識の争奪
- ▶ ナポレオンをめぐる画像
- ▶ フランス革命の画像
- ▶ 小説と演劇
- ▶ 芸術と公共性
- ▶ 「メデュース号の筏」
- ▶ 現代的転位
- ▶ ピカソ
- ▶ 『1984年』の公共圏
- ▶ 「グラウンド・ゼロ」と公共圏
- ▶ チェルノブイリと公共圏

